

平成29年度 学校評価シート

目指す学校像	生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校
育てたい生徒像	幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒

本年度の重点目標	1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。
	2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。
	3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。
	4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。

4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

学校名: 和歌山県立熊野高等学校 学校長名: 夏目康弘

達成度	A	十分に達成した	(80%以上)
	B	概ね達成した	(60%以上)
	C	あまり十分でない	(40%以上)
	D	不十分である	(40%未満)

学校評価の結果と改善方策の公表の方法
インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

自己評価					年度評価(月日現在)		
重点目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標			
1	授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。授業へ真面目に取り組む生徒がほとんどだが、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、家庭学習の習慣があまり身につけていない生徒もいる。そのため、アクティブラーニング形式の授業等を取り入れたりすることで、授業を工夫し、生徒たちが主体的に学習するように意識づけることが必要と考えられる。	教員が授業研究等を行うことで授業力向上を図っているか。 生徒の主体的向上のための、方策が取られているか。 科目選択等を通じて、生徒の目的意識向上を図っているか。	上富田町の小中高連携での授業研究を実施し、積極的に各教員が参加し、異校種からの多角的な視点を取り入れ、各自の授業力向上を図る。 家庭での学習習慣の定着のため、定期的な学習課題を提供するとともにその内容も吟味する。また、生徒による授業評価を実施し、生徒の視点からも授業をふり返り、よりよいものにしていく。 生徒各自の進路に即した科目選択ができるよう丁寧な指導を行う。	研究授業、研究協議を実施した際には、教科の枠を超えて内容を共有できるような情報提供の機会を確保する。 課題テストや小テストを実施する。 生徒による授業評価を実施する。 科目選択を実施するうえで、できる限り生徒の希望が叶うよう配慮する。	各教科で公開授業を実施し、各自の授業の工夫・改善を生かした。 上富田町での小中高連携授業研究では、上富田中学校での「どの子も分かる、どの子も参加する授業づくり」という研究主題のもと、授業を参観し、高等学校にもつながる工夫がみられ大変参考になった。 アクティブラーニング形式の授業では、生徒もだいたい慣れ主体的に学ぶようする意欲ができた。 科目選択では物理的な理由で科目が開講できなかったり、抽選になったりしたが、できる限り生徒の希望が叶えられるようにできた。	B	上富田中学校での小中高授業連携や公開授業で得た工夫・改善を他の職員にも情報を共有し、実践していきたい。 アクティブラーニング形式を取り入れた授業を行うことで、主体的に学ぶ生徒が増えてきたが、まだまだ積極的でない生徒もいるため、授業中の声かけなどに工夫・改善が必要である。 各教科で宿題を出し、小テストや課題テストを行っているが、普段の家庭学習の時間が短い生徒がまだまだ多い状況である。さらに、家庭学習の重要性を認識させ、学習習慣のより一層の定着を目指したい。
2	総合学科では、生徒の進路決定率が93.2%であった。今年度は、早い時期から進路喚起をさせ、自己決定できる生徒の育成。また、きめ細い指導を行い進路未定者を減らす努力をしていきたい。 専攻科においては36名の卒業生と35名の看護師国家試験合格者を出すことができた。今年度は全員の国家試験合格を目指していきたい。また、進学や大学編入を希望する生徒への組織的な指導体制を整えていきたい。	生徒の進路実現に向けての段階的・系統的な取り組みがなされているか。 生徒自身が自ら考え行動し決定できる進路指導がなされているか。 看護科5年間を見通した継続的な指導が行われているか。	進学・就職に対応できる学力を身につけさせる。 キャリア教育を通じて勤労観・職業観を高める。 看護科においては卒業生の体験談を聴くことや異学年との交流を通して進路意識を高める。	実力テスト等での低学力者の10%減少。多岐にわたる進路希望への組織的な対応と成果。 インターンシップや校内ガイダンスの効果的な実施により、早期からの進路未定者の減少。 生徒への継続的な進路指導の実施に伴い、希望進路の決定率の向上。	進路決定が早い時期になるにつれ、従来より前倒しをした指導により、未決定者が大幅に減少した。ただし、生徒の学力が飛躍的に向上したというより、近年の社会情勢に起因する部分が大きい。 インターンシップや校内ガイダンスの実施により、生徒が自分の将来と向き合う機会となっている。 看護科においても総合学科と同様、早い段階での指導により進路先の内定率は高かった。異学年との交流や学年の結束力が、各々の進路意識を高めた。	A	総合学科では、低学年より職業理解や学校選択などの指導をより充実させる。実力テストから把握できる低学力層の生徒に対する手立てを学年と協力して取り組む。 看護科において、進学を希望する生徒や就職試験でも小論文を課されることが増え、専攻科1年の希望者に対して、小論文講座を取り入れ対応していく。
3	サポーターズリーダー部をはじめ農業クラブ、吹奏楽部・読み聞かせサークル等において地域に貢献する多くの活動を行い、さらに上富田町と合同防災訓練を実施している。こうした活動の成果を高めるために、さらに多くの生徒・職員の参加を促す必要がある。	ボランティア等地域活動についてその意義を理解して参加できているか。また、取り組みの成果が校内で共有化できているか。 防災訓練を通して自らを守ることとともに、高校生として、地域でのような行動を取るべきかを理解しているか。	教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。 マンスリータイムスやアセンブリ等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。 上富田町と合同の防災訓練を行う。消防署の指導により救急救命訓練を行う。ホームルームやアセンブリにおいて適宜防災教育を行う。	全生徒の地域活動への参加目標回数を年3回以上とする。 地域での活動を広報やアセンブリ時に積極的に取り上げる。 緊急時の避難行動を迅速にとることができ。救命措置を適切に行うことができる。自発的に地域連携の行動をとることができ。	部活動やサークル活動における地域貢献活動はもとより、生徒会主催で定期的に地域の清掃活動に取り組んだ。上富田町との防災訓練については雨天により中止となったが、避難訓練を中心とした学校独自の防災訓練を行った。その中で町の事業で夏に福島県を訪れたサポーターズリーダー部員から福島県の復興の状況についての報告を聴き、学校全体で防災意識を高めることができた。	A	地域貢献活動については、おおむね達成できているが、より多くの活動を行うことを次年度への課題とした。防災訓練については雨天時の計画について、学校独自でも行える訓練(救急搬送訓練等)などを取り入れた計画を立てることを次年度への課題とした。
4	暴力事象等大きな問題行動も減少傾向にあるが、SNSの利用が懸念される。更なる挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。	SNSのモラルや挨拶、マナー指導の充実を行い、基本的な生活習慣の確立が行えるよう、継続した指導を行っている。また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。	頭髪服装指導 新入生宿泊研修 駐輪指導 遅刻・無断欠課防止週間 登校時自転車通学指導	学年アセンブリーで点検指導の後も指導を継続する。校内巡視及び校門指導等の事後指導等を継続して行う。 遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行う。 些細な事象でも見逃さず継続した指導を行う。	学年集団(教師間)がしっかりとおり、秩序、連帯感が保たれた指導ができています。生徒も学校、学年への帰属意識が高い。挨拶、マナーの定着が出ており、活気がある。 SNSについての指導は数件ではあったが、大きな事象はなかった。	A	・継続していくことが課題と考える。挨拶を教師側もしっかり行い、敬語を話す事もしっかりと指導していく。アセンブリーで帰属意識をもたせる取り組みを行っている。 ・SNSのモラルについては効果が分かっていくが、丁寧に伝えていく。 ・些細な事象も見逃さず、未然に防ぐことに努める。

学校関係者評価
平成 30 年 3 月 7 日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
3月7日に開催された学校運営協議会では、地方紙によく学校の取組が取り上げられていて誇らしいこと、サポーターズリーダー部を中心として、生徒が地域に積極的に関わりを持ち、地域住民として頼もしく感じること等の感想が出され、学校全体の運営について概ね高い評価をいただいた。現状の地域貢献への評価と、地域に支えられている学校という自覚を持ってますます発展させてほしいという、今後の学校運営に期待する意見が出された。
学校評価アンケートによれば、ほぼ全ての項目に於いて、十分である、ほぼ十分であるを併せれば80%を超えており90%以上の項目も少なくない。生徒、保護者、職員に対するアンケート結果が示すものは、熊野高校は顧客満足度、従業員満足度の両方が高い集団であるということである。これは学校の安定的な発展を支えている重要な要因であると言える。さらに、熊高教育協議会・学校運営協議会からも同様に高い評価を頂いていることは、熊野高校の教育活動が学校内にとどまるのではなく、地域と共に歩んでいる証であろう。 アンケートに寄せられた意見には、サポーターズリーダー部の活動に代表される地域貢献等特色のある学校運営は評価できるが、いたずらに学校の個性を強調するあまり学業を疎かにすることなく、人生の基礎を築くべく地道にこつこつ努力することを高校時代に指導してほしいとの指摘もあった。また、学校内での来客への挨拶等、学校生活を通して駄がしっかりとされているところは評価できるが、さらに熊高生として輝くには、学校という枠がなくとも、例えば校外の体育施設を利用しているときなど、自然と挨拶が出来るようになることが必要との指摘を受けた。さらに、保護者の方からは、クラブ指導に関するご意見、定期考査等に関するご意見等を頂いた。真摯に受け止め次年度の学校運営に生かしていきたい。